

グリメピリド錠・OD錠「ケミファ」を 服用される患者様へ

〈グリメピリド錠「ケミファ」〉

	0.5mg	1mg	3mg
表			
裏			

〈グリメピリドOD錠「ケミファ」〉

	0.5mg	1mg	3mg
表			
裏			

- コップ1杯程度の水またはぬるま湯で服用してください。
ただし、OD錠は水なしでも服用できます。
- 指示された時間に服用を忘れてしまったら、1回とばして次の指示された時間から服用してください。

● 糖尿病の薬が処方されています。

この薬は、すい臓にはたらきかけてインスリンの分泌を促し、血糖を下げます。

● 危険な低血糖症を起こすことがあります。

● 予防と処置法に十分注意してください。

● この注意は必ず家族やまわりの方にも知らせておいてください。

1. 低血糖症とは

- 血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急に強い異常な空腹感、力のぬけた感じ、発汗、動悸、手足のふるえ、眼のちらつき等が起こったり、また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。
- はなはだしい場合には、けいれんを起こしたり意識を失うこともあります。
- 空腹時に起こり、食物を食べると急に良くなるのが特徴です。
- 低血糖症は危険な状態ですから、このようなことが起こらないように注意し、もし起こったら、軽いうちに治してしまわなければなりません。

(裏面もご覧ください)

- なお、低血糖症が起こっていることを本人が気づかなかったり、わからなかったりすることがありますので、家族やまわりの方もいっしょに注意してください。

2. 低血糖症の予防には

- (1) 薬の量や飲み方は、主治医の指導を正しく守ってください。
勝手に量や飲み方をかえるような自己流のやり方は危険です。
- (2) 食事をみだりに減じたり、抜いたりしないよう食事療法はきちんと守ることが大切です。酒の飲みすぎ、激しい運動、下痢などは低血糖症を起こしやすいので注意してください。
食事がとれない時は、主治医に連絡してその指示をうけてください。
- (3) 薬の中には、いっしょに飲むと低血糖症を起こすものがあります。何か別の薬を飲む時には、主治医に相談してください。
他の医師に何か薬を処方してもらう時には、すでに糖尿病の薬を飲んでいることを申し出てください。

3. 低血糖症が起こったら

- (1) 低血糖症になっても軽いうちは糖分を食べると治ります。
平素から 3～4 個の袋入り砂糖を持ち歩き、すぐその場でとることが必要です。がまんしてはいけません。
ただし、アカルボース（商品名：グルコバイ等）、ボグリボース（商品名：ベイスン等）、ミグリトール（商品名：セイブル）を併用している場合には砂糖は不適切です。これらの薬剤は砂糖の消化や吸収を遅らせますので、必ず**ブドウ糖**をとってください。
- (2) 十分注意していても、ときには意識を失うような強い低血糖症が起こらないとも限りません。
自分は現在糖尿病で薬を飲んでいることを書いたカードを身につけておき、すぐに治療してもらえるようにしておくことが安全です。
- (3) 低血糖症を起こした場合は、必ず早目に主治医に報告してください。

4. 高所作業や自動車の運転等危険を伴う作業に従事している時に低血糖症を起こすと事故につながります。特に注意してください。

あなたが飲むおくすりは グリメピリドOD錠「ケミファ」です

グリメピリドOD錠「ケミファ」は、すい臓にはたらきかけてインスリンの分泌を促し、血糖*を下げるおくすりです。

*ヘモグロビンA1c (HbA1c)、食後血糖、空腹時血糖



0.5mg錠



1mg錠



3mg錠



おくすりの飲み方と量

あなたの症状などにあわせて、お医者さんが決めます。通常、1日0.5～1mgより開始し、1日1～2回朝または朝夕、食前または食後に服用します。維持量は通常1日1～4mgで、必要に応じて適宜増減し、1日最高投与量は6mgまで処方されます。

おくすり（グリメピリドOD錠「ケミファ」）を 飲む時に注意すること

- このおくすりは、口の中で溶かして飲むおくすりです。舌の上で唾液を含ませ舌で軽くつぶして、唾液で飲み込みます。唾液だけでは飲み込めない場合はコップ1杯の水またはぬるま湯で飲み込んでください。
- 自分の判断でおくすりを中止したり、おくすりを変更したりすると病気が悪くなることがあります。
- 指示された時間に飲むのを忘れてしまったら、1回とばして次の指示された時間から飲んでください。
- 決して2回分を一度に飲まないでください。（低血糖症を起こすことがあります。）
- お医者さんまたは薬剤師の先生の指示通りに飲んでください。
- 誤って多く飲んだときには、お医者さんまたは薬剤師の先生に相談してください。
- 発熱、下痢、嘔吐があり、または食欲がないため食事ができないときは、お医者さんに連絡して指示を受けましょう。

低血糖の対処法

- だるさ、強い空腹感、冷や汗、動悸（胸がドキドキする）、手足のふるえ、意識が薄れる、などの症状があらわれることがあります。その場合はすぐに砂糖あるいはブドウ糖を摂取し、意識が薄れてきた場合はただちにお医者さんに連絡してください。
- α -グルコシダーゼ阻害剤（ベイスン、グルコバイ、セイブルなど）と併用をしているときに低血糖症状が認められた場合にはブドウ糖をとりましょう。

保護者の方へ

小さなお子様の場合には低血糖の症状が分からずに、自分で対処できないことがあるため、「低血糖かな？」と思う症状があらわれたときには砂糖やブドウ糖を摂取させ、よくならないときは主治医にみてもらうようにしてください。



日本ケミファ株式会社